



出向・留学便り

[留学] Department of Surgery, University of California, San Diego 三輪 真嗣

[出向] プロジェクトX part3 -腫瘍班として成熟を！- 白井 寿治
国立がんセンター中央病院 出向便り -Part 3- 丹沢 義一
名古屋市立大学出向記 第三幕 林 克洋

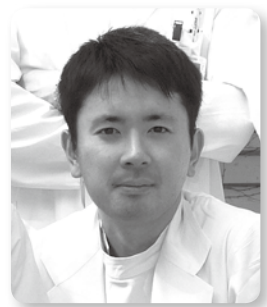


[国外留学]

カリフォルニア大学サンディエゴ校

三輪 真嗣

(平成 15 年入局)



Department of Surgery, University of California, San Diego

サンディエゴの生活

平成 24 年 1 月からカリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) 外科学教室に留学させていただいており、Robert M. Hoffman 教授のもとで癌の転移についての基礎研究をしています。留学してから 2 年たち、数本の論文も発表させていただきました。

サンディエゴでの日常としては、研究室では黙々と実験し、日系スーパーで買い物をして帰宅すると食卓にはコシヒカリのごはん、納豆、味噌汁がならび、カリフォルニアに住みながら日本の生活をしているという感じです。サンディエゴの中でも私たち留学生が住む地域は UCSD の近くで、大学や研究施設の人が多く住んでいます。中国、韓国、インド、ヨーロッパなど様々な国の人が住んでいるので、近所の公園に行くといろいろな国の言葉が聞こえてきます。

大学周辺の地域に住む日本人の多くは数年で帰国するため歓迎会や送別会が頻繁に開かれます。歓迎会や送別会で数世帯の家族が集まるときはバーベキューが基本です。ほとんどのアパートにはプールとバーベキューのスペースがあり、自由に使うことができます。また、サンディエゴの天気はほとんど晴れて雨の心配はなく、1 年を通して気温の変化が少ないのでどの季節でもバーベキューができます。サンディエゴに住む日本の整形外科医が集まってバーベキューをするというのも毎年の恒例行事のようになっています。他の研究施設に出入りすることはないので、公園やバーベキューで知り合った人達から他の研究機関の話を聞くこともあり、大事な情報収集の場になっています。



サンディエゴの風景

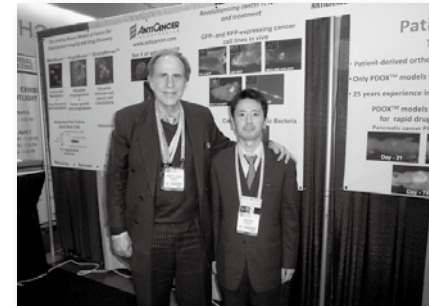
研究内容について

Hoffman 先生は、蛍光蛋白で癌細胞を標識して生体内での変化を観察するという手法の先駆者であり、研究室では癌の転移に関する実験を行っています。ヌードマウスを用いて癌の骨転移や肺転移のモデルを作り、癌がどのように転移するか、様々な治療薬が生体内でどのような変化をきたすのかを観察しています。いろいろな癌の転移モデルを作るのには苦勞し、試行錯誤の日々を送っています。

日本の医局では夜遅くまで仕事をする人が多く、早く帰宅することに抵抗がありましたが、こちらの研究室では朝 9 時から夕方 6 時くらいまで仕事をして、日が暮れるくらいに帰る人がほとんどです。

研究所では頑張ってもその努力を評価してもらうことはなく、結果で評価されます。手技や設備の問題で実験の計画が思うようにいかず、途中で中止しなければならないこともあるため、いくつかの計画を同時進行で実験しています。

ほかの施設では 3～5 年間で一つの実験計画を行うところもありますが、長期で 1 つの計画というの



Hoffman 先生

はホームランを狙うようなもので、時間と多くのお金を費やしても空振りということもあります。Hoffman 先生は比較的短い期間で結果の出る実験を好むため、私達の研究室で実験する日本人の多くは 2～3 年でいくつかの研究を論文にしていきます。私の研究も Hoffman 先生の方針に従い、ホームランにはならないと思いますが、内野安打で業績を増やせたらと思っています。

アメリカでは進学や就職の際に推薦状が用いられることがあ

ります。日本では有力者のコネというのは悪い印象をもちますが、アメリカではコネを作るのも実力のうちと考えられているようです。研究室には他の研究所や企業の研究員のほか、大学生や高校生もいます。彼らにとって研究経験を積み、Hoffman 先生に推薦状を書いてもらうことは進学や就職で有利になるようです。そのため、私達の研究室に通って実験をしたいという高校生もあり、地元の高校生に実験手技を教えることも仕事の一つです。研究室では黙々と仕事をしているので普段はあまり英語を話す機会がないのですが、地元の高校生との実験は私にとって無料の英会話レッスンの時間になっています。

最後になりましたが、今回の留学に際し御尽力を頂いた土屋教授をはじめ、快く送り出してくださった医局の先生方並びに同門の先生方にこの場をかりて厚く御礼申し上げます。今回の留学で得た経験を日本での臨床や研究に生かせるように頑張りたいと思います。

【国内出向】

京都府立医科大学

白井寿治

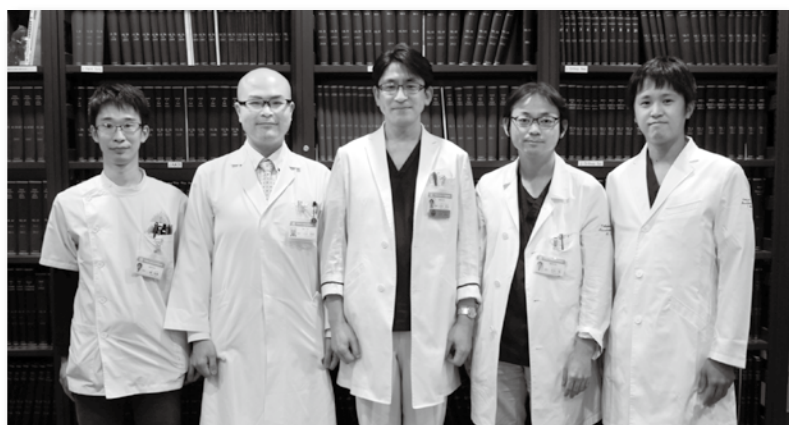
(平成8年入局)



プロジェクトX part3 一腫瘍班として成熟を！

今年も京都で4度目の春を迎えてしまいました。今、京都は桜が満開です。医局から鴨川をみると、川沿いにはきれいな桜並木が見えます。その風景は犀川を彷彿させ、金沢の地を懐かしく思います。自転車通勤にも慣れ(去年はロードバイクも買いました)、四季の移り変わりを肌で感じながら毎日をご過ごしております。

さて、今年は腫瘍班を立ち上げて4年目となり、腫瘍班の成熟の時期にきています。成熟する上で最も重要な要素の一つは、マンパワーです。幸いにも我々腫瘍班は久保先生の計らいで、今年度から5人に増員していただきました。私をはじめ、昨年本誌で紹介さ



森裕貴、土田真嗣、白井寿治、寺内竜、溝尻直毅

ていたいただいた寺内竜先生(平成10年卒)、溝尻直毅先生(平成22年卒)、そして土田真嗣先生(平成13年卒)、森裕貴先生(平成23年卒)が加わり、とても活気がある元気なチームとなりました。寺内先生も徐々に診断能力が向上し、手術技術も習得してきております。土田先生は、もとは手外科専門でした。容姿は写真にあるようにスキンヘッドでそれを自虐的なネタとして、雰囲気を明るくしてくれています。溝尻先生と森先生は大学院生であり、主に研究を中心にがんばっています。研究はダイレクトリプログラミングに関する研究やヒートショックプロテインに関する研究を進めていく予定です。よい成果が出ることを期待しています。

普段の診療に目を向けますと、われわれの外来日は、火曜日の再診外来と金曜日の初診外来の2日間です。そして腫瘍班の手術日は木曜日となっております。幸いにも、最近では周囲の病院に骨軟部腫瘍の治療を行っていることが徐々に認知されてきたようで、紹介していただける症例も増加傾向にあります。またカフェイン併用化学療法や液体窒素処理骨移植術の噂を聞き、来院される例もあり、手術日が週1日では足りなくなりそうな勢いです。非常にありがたいことです。昨年度までの治療実績ですが、主なところでは、カフェイン併用化学療法が17例、液体窒素処理骨移植術が7例、ヨードコーティングインプラント挿入が8例となりました。骨肉腫症例は年間3例程度治療しており、幸いに

も全例無病生存中です。これからも引き続き治療成績の向上に努めていきたいと思います。

ところで私事ですが、最近徐々に体重が増えております。原因は、毎日夜遅くに夕食を食べるためなのか、年齢的なものか、運動不足からくるものなのか分かりませんが、周りからは飲み過ぎが原因でないかと言われています。単身赴任で寂しがりやのため、夜仕事が終わってから若い先生たちとご飯に行くようになり、その際、一日の疲れを癒すため、つい飲んでしまいます。気づくと11時ごろから食事を始め深夜2時ごろに帰宅するといった生活をしています。分かっているのですが、不健康ですね……。仕事では2時まで起きてられないのに、飲むとなぜか起きていられます。お酒が翌日に残らないよう「五苓散」を内服すること、太らないように「カロリーミット」を内服することは欠かさず行っています。後輩たちにもそれを勧めています。ちなみに「カロリーミット」は土屋教授に教わったサプリメントです。それを内服していなかったらもっと体重増加していたことでしょう。

京都の食事処に関して、いろいろな場所を開拓しました。奮発すればそれなりにどこでもおいしいと思いますが、お財布事情からなかなかそのようなところは行けません。そこで、コストパフォーマンスが非常に優れており、お店の雰囲気もすてきな、私の大好きなお店を紹介したいと思います。まずは第3位:「分け侘(わけわび)」です。以前は侘家古暦堂(わびやこれきどう)先斗町店でしたが、店長が独立され名前が「分け侘」にかわりました。焼き鳥とワインが楽しめる場所で、なかでも白パテは絶品です。店の雰囲気が僕は好きです。次は第2位:「いの田」です。こじんまりとしたお店ですが、いつもいっぱい、串焼き、コロッケ、日本酒多数などが魅力です。時々芸能人も来るとか……。そして堂々の第1位は「人見」です。「人見」は焼鳥屋さんで、炭火で焼く焼き加減が絶妙で、一本一本を温めたお皿にのせて出してくれるのが乙です。店長の優しい心遣いが感じ取れます。そんな店長の人柄もランク第1にした要因です。常に予約で満席のため早めに予約するか、夜9時半頃からでないと入れないほどの人気です。私の家族も大ファンです。以上この3年で開拓したコスパのいいお店ランキングでした。なんだかすべて焼鳥店になってしまいましたが、興味のある方はぜひ、京都へお越しの際お試しください。

この3年間土屋先生のモットーである、「明るく、楽しく、元気よく」を守って、昼夜がんばってきました。そして昨年度の目標は健康に留意しながら、飛躍できるよう努力することでしたが、自分の中では、なんとか達成できたのではないかと考えています。今年度はそれに加え「すぐやる、必ずやる、できるまでやる」を実行できるよう心掛けたいと思います。少しでも金沢大学整形外科および京都府立医科大学整形外科に貢献できるよう全力で精進する所存です。



新しくなった京都府立医大の門

【国内出向】

国立がん研究センター中央病院

丹沢義一

(平成12年入局)



国立がんセンター中央病院 出向便り — Part 3 —

国立がん研究センター中央病院の骨軟部腫瘍科の丹沢です。こちらに赴任し早いもので2年がたち、この出向便りも3回目を迎えました。2年前に当院への勤務が決まった際には大学とがんセンター間の教員交流人事ということで2年間限定でのお話でありました。が、土屋教授およびがんセンター骨軟部腫瘍科中馬科長のご厚意によりさらに2年延長してがんセンターでお世話になることに相成りました。がんセンターのスタッフとして今後も臨床および研究活動に邁進していきたいと思う今日の頃であります。

さて、この2年は自分の人生においてあらゆる面で激動の2年でありました。まず体重が大学勤務時代から10kgあまり増量しました。もともと60kgくらいでしたので17%増しです。昨年買ったシャツが今年は着れなくなり、階段を昇るのも最近では息がきれます。金沢大学ラグビー部の先輩である西田英司先生、藤巻芳寧先生の豹変ぶりを他人事のようにみておりましたが、そうもいけなくなりました。金沢では車通勤があたりまえでありましたが、現在は電車で約1時間かけて横浜から築地まで通勤しております。朝6時半の電車でも座れないことが多く、早朝からの席とり合戦は精神的に疲れました。ここ1年は朝5時起床、5時半のすいた電車にゆとりを持って座って通勤しております。30代後半にしてこのような健康的な生活をおくるようになるとは思いませんでした。金沢と違いこちらでの生活にはやはりお金がかかります。家賃が高いのは申すまでもありませんが、食事するにも結構な費用がかかります。がんセンターの立地はよく銀座・汐留まで歩いて行ける距離にあります。恵まれているとお思いかもしれませんが、自分のような平民にとってみれば豚に真珠です。そこでがんセンターのメンバーとは近く中華料理店に行くことが多いです。東銀座の“蘭州”はお薦めで、早い、美味しい、安いので週に1度は必ず行きます。夜遅く中華食べるから太るのかもしれませんが・・・

そんなこんなで波乱に満ちた毎日をおくっておりますが、こちらに来てよかったこともたくさんあります。がんセンターに来るまでは恥ずかしながらこのマニアックな領域では赤子同然で、よちよち歩きの状態でした。おかげさまで今では国立がんセンター骨軟部腫瘍科のスタッフとして週に一度の外来をまかせていただいております。ようやく独りで歩けるようになってきました。がんセンターには関東地方はもちろん全国からも紹介患者が来院され、新患を診る機会も多くなりました。非常に緊張感を持って診療しております。東京というお土地柄でしょうか、国際色も強く、なぜか自分の外来には外国の方が多く訪れます。中国の富裕層、ベトナム人歯科医、イギリス人英会話教師、そしてリビア人外交官の妻などなど外国人患者といえば“丹澤”と言われるほどになってしまいました。中国の富裕

層の患者から執拗に大連まで遊びに来るようお誘いがあるので少々困っています。

現在、当院の整形外科では骨軟部腫瘍科として、病床数35床に対し、5人の臨床スタッフおよび3-4人の研修レジデントとともに診療にあたっております。また、小児科、腫瘍内科、放射線科とチームを形成し、骨肉腫やユーイング肉腫などにおける急性期の化学療法の導入および進行肉腫・再発例を対象とした集学的治療も行っております。自分は土屋教授の計らいで運よくスタッフとして採用となっていますが、レジデントの先生らは安月給で過労を余儀なくされています。しかし、皆それぞれの大学から派遣されたモチベーションの高い優秀な先生たちばかりで、皆とディスカッションをしながら最良の治療を吟味し決定し施行しております。この1年がんセンターにおいても金沢と肩を並べるくらい多くの悪性骨腫瘍患者の治療を行いました。骨肉腫症例10例には病巣が骨端におよび関節温存が不可能な症例を除き、関節温存手術を3例に行い、1例に液体窒素処理骨を併用しました。そのほかにもEwing肉腫や骨転移症例など4例に対し液体窒素処理骨を用いた再建術を行い、うち1例に初めてPedicule freezingも行っています。昨年7月には西田英司先生が慶応大学の手術手技セミナーで六本木ヒルズに講演に来てくださり、自分も慶応の先生たちと共に応援に行きました。やはり液体窒素処置の術中VTRは非常にImpressiveで、特にPediculeに対しての質問が殺到していました。この会に便乗してその晩は西田先生、慶応大学の先生らと麻布・六本木で終電の時間まで飲んで飲まれました。

がんセンターのよいところは全国に知り合いが多くできることにあると思います。今年も昨年に引き続き東京ドームシティで行われた骨軟部腫瘍学会に先立ち、各大学・施設の若手が集い懇親会を開



金沢大学と国立がんセンターのメンバーが集結 @神楽坂

催しました。昨年以上の参加者数で、会場は満員御礼、完全に埋め尽くされました。2次会では金沢大学のメンバーと国立がんセンターの現役・OBのメンバーとで親睦を深めることもできました。この会にも九大、岐阜大、岡山大、弘前大、慶応大など多彩なメンバーで、各大学事情も聴くことができ大変有意義な会になりました。本年度も全国からレジデントの先生が3人研修に来ることになっています。

またこちらにおりますと土屋教授をはじめ同期・同門の先生がたが東京出張の際に声をかけてくださるので、大変うれしく思っております。昨年末に土屋教授・武内先生と食事をご一緒させていただきました。大学・がんセンターの近況を互いに情報交換でき、またおいしい肉を食しつつ自分の愚痴を聞いていただいたりと、大変贅沢な時間を過ごさせていただきました。金沢ほどReasonableでおいしいものは食べられませんが、東京にはいいものが集まってくるという地の利はあります。皆様、東京方面へお越しの際にはお声かけください。

昨年は不摂生がたり、痛風発作や坐骨神経痛に襲われることも時にはありましたが、おかげさまで元気に充実した毎日を過ごしております。今年も昨年以上に金沢イズムを広められるよう粉骨砕身努力する所存です。最後になりましたが、このような大変貴重な機会を与えてくださいました土屋教授、教室・同門の先生方に心より感謝申し上げます。



最高級の黒毛和牛と共に @白金

〔国内出向〕

名古屋市立大学



名古屋市立大学
林 克洋
(平成9年入局)

名古屋市立大学出向記 第三幕

この4月で金沢大学から名古屋市立大学整形外科への派遣が3年目に突入となりました。私は2年間の実務を終え、木村浩明先生に引き継ぎましたが、未開の地、名古屋での2年は長かったようであるという間でした。単身赴任でしたので毎週末に往復した日々も今となっては懐かしい思い出です。

ちなみに100回近く往復した金沢名古屋の移動に関して、JRでは回数券6枚綴りが最安値で片道6000円、しらさぎ～新幹線の2時間半で着きます。金沢の始発5:00に乗れば、8時には名市大に着いているので、月曜の朝は金沢から出勤していました。もっと安い選択肢はMKバス往復4000円(!)というのがあります。しかし高速バスの事故も少なくないようですし、使ったことはありません。時間優先なら自家用車で高速道路の米原経由が一番早く、家までで目的地に着くまでが3時間です。JRですと駅までの移動などがあり、どうしても4時間前後はみないといけないのと、終電の制限もあるので、忙しい時は夜中早朝かまわらず出発できる車で往復していました。

さて2年間でがんばってきたことをあげますと、カフェイン併用化学療法、ヨードコーティング材、液体窒素処理骨などの治療を、倫理委員会の承認を得て開始しました。手術室の手洗いをスクラブ法からラビング法に変更、外来初診システムの改善、日整会基礎などの主催学会運営に貢献と、一応派遣されたノルマは達成かと思っています。また、他大学である特権で、こそっと(堂々と?)金沢ひいきになるように講演者の選出などもしていました。あとは趣味の世界ですが、学会などのイベントで楽器演奏をさせてもらい、数えると2年間で10回も弾く機会がありました。これも大塚教授や医局員などのお気遣いによるものでした。

新規治療の導入をされていて思ったことがひとつ。新しい治療をするには、やはり先立つもの、お金が必要ということです。例えばカフェイン併用化学療法ですが、通常の抗癌剤治療にカフェイン料金の追加だけですと1クールカフェイン代わらず数千円です。金沢大学のように先進医療でやっていると数千円は患者さんが支払い、残りの入院費は通常の保険診療となり、特に費用で問題になることはありません。ところが、名市大のようにカフェイン併用化学療法を始めたばかりの施設では、5症例をこなさないと先進医療として申請できません。その5例の支払いが問題となります。カフェインの大量投与は保険適応外なので、病院でカフェイン代数千円を負担し、あとの入院費は保険診療で行うというのが良さそうですが、これは混合診療になり、現状の医療制度ではアウトです。病院が入院費も含めた全費用をだすか、患者が全費用をだすかの選択しかありません。入院費はカフェイン併用化学療法をする患者さんは通常ひと月100万円前後かかります。結局名市大では病院が月100万円負担



写真 1：大塚隆信教授と、名市大同門会より斯整会賞を受賞して



写真 2：低温医学会の懇親会で、名市大と金沢大コラボで演出を行いました。



写真 3：月曜夕方 16 時から教授回診と術前カンファレンス、木曜朝 7 時半からも術前カンファレンスです。金沢大学と違い、手術や外来は毎日あり、研究室が曜日ごとに枠を持っています。朝は特に朝礼はなく、各自仕事にあわせて集合です。

してカフェイン治療の導入開始となりました。数千円のカフェインを追加で使うだけのためにです。骨肉腫の患者さんは1年近く入院しますので約5000万円、5症例を行い先進医療の許可がおりるまでは数億円(!)かかる計算になります。誰が払ってくれるの?という感じです。このような制度は頭でっかちとしかいえませんし、新しい治療法が生まれるのを足引っ張っている感は否めません。土屋教授がこのあたりを厚労省と最前線で議論していますが、そうトントン拍子に制度が変わるものでもなさそうです。一部混合診療解禁が望ましいのではと思います。

名市大に2年間いる間に、稲谷先生と共に種々の学会発表や、論文執筆、学会賞の受賞などしましたが、特に昨年の名市大の同門会では、私は名誉ある斯整会賞を受賞しました。優秀な論文を書いた会員2名が表彰されるもので、低悪性度骨肉腫について名市大と金沢大の症例をあわせて執筆し International Journal of Clinical Oncology に採択された論文に頂きました。名市大でがんばってきたよい記念になりました。

結局北陸の方言は抜けないままに名古屋をさることになりましたが、2年もいると情もうつるものです。もうちょっといてもよかったかな、とも思います。この経験を元に古巣でよりいっそうがんばろうと思います。名古屋の距離感はかなり近くなったので、気が向いたら日帰りで行き来もできる感触です。離れてしまうのは寂しいものですが2年間お世話になった方々に感謝しております。